

SSKW

海から海へ

No.22 2009.12.13【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5

マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



夜のクリスマス Xmas in Darkness 1167x803 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

田中瑞木美術館展

約1,000人の方々に来場していただきました。
会場で書いていただいた感想をすべて掲載します。

2009年7月25日～10月12日
南牧村美術民俗資料館(野辺山高原)
主催:南牧村・南牧村教育委員会
協力:田中瑞木美術館

- ◆娘や孫たちと、楽しく見させていただきました。素直なものを見る目の確かさに感動します。私も孫たちも絵を描き、ものを作ることを楽しんでいますが、あらためて自分の心を見直すような気持ちになります。ありがとうございました。8/1 貝川春代他
- ◆親子3代で楽しく見させていただきました。のびのびとした色使いにあたたかな気持ちになりました。私も子ども達と何かをつくりだす楽しさを味わって生きたいと思います。高橋あゆか、うた(5才)
- ◆幸せな気分になりました。私も画を描くのが好きでアート教室に通っています。私はデザイナーか画家になりたいです。反町ひかる
- ◆とてもかわいい絵でした。私も絵をかくのが好きです。Rio
- ◆細かいところまでよくかけててすごい集中力だと思いました。片野さや
- ◆色づかいとものの形がとっても魅力的でした。いつか制作されているところにおじゃまさせていただけたらうれしいです。これからもお仕事をしながらよい作品を沢山制作されますように。板倉知恵

- ◆独特の感性に魅かれ感銘を受けました。8/7 中北倫男
- ◆絵の迫りに圧倒されました。色づかいも気に入りました。まさしく「みーちゃんは凄い」と思いました。こんな絵に出会えて幸せです。中北久美子
- ◆「くじらといか」と「ねこの原っぱ」の絵がきにいました。わたしも絵がすきなのでじょうずな絵を描いてみーちゃんのえのようなりっぱながかになりたいです。8/9 清里小2年松岡茉莉
- ◆みーちゃんのみから見た世界はどんな風に見えるんだろう… 素晴らしい感性と色使いに感動しました。また、来ます。松岡明子
- ◆初めて作品を拝見しました。感じたものを描いていくその表現が素晴らしいと思いました。それに、どの作品を見ても心が和みます。入場したのは偶然でしたが本当によかったです。土肥絵美
- ◆「ねこの原っぱ」は愛子さんの描かれたとおり、ねこ7ひきがこっちを見ていて、「あっちにだれかい」というふうでした。大きい絵ではくりょくがあり、感動しました。8/10 藤家空太郎
- ◆「さくら」の絵はちよびとつかかないで、三りんの花を大きくかいてとてもきれいでした。もっといろんな絵をかいて下さい。8/10 藤家風吾
- ◆色づかいがとてもキレイでした。花の形がダイタンで力強く、観ていてとても楽しかったです。宮祥子
- ◆瑞木ちゃんおめでとう！いつも元気をもらえます。ありがとう。これからもいっぱい描いてね。また調布でお会いしましょうね。川原
- ◆動物の絵がとてもかわいく、すてきでした。色づかいもとても面白い。パワーをもらえました。これからもぜひ創作活動頑張ってください！加藤



大好きなSさんをお招きして



会場での画家



お客様たち

- ◆私も絵を描くのが大好きなのでみーちゃんの気持ちわかります。これからもがんばって絵を描いてください。8/13 菅原佳純
- ◆「花とレモン」が気に入りました。
- ◆瑞木ちゃんの絵から生きるパワーをもらいました。自由な構図、色使い、筆使いは何にもとらわれず自由でいいんだ！！と。人生は楽しいものなんですね。調布の美術館にも元気をわけてもらいに行きます！
- ◆瑞木さんの絵を隅々まで見せてもらいました。一枚一枚力強く色もたくさん使っており、何かがちりしたものの、いのちの力があふれているのが伝わってきました。調布でお仕事をしたり、絵を描いたり、友だちと話しをしている時もそうなんでしょうと想像し、うれしく思いました。調布でまた見に行きます。嶋崎すゑ子
- ◆はじめて見ました。人物がまっすぐ立って、まっすぐこちらを見ているのがいいです。はじめての絵(12才)にビックリしました。高寺葉子
- ◆「くじらといか」の絵が特に印象的でした。色彩がキレイで、近くで見るのと遠くで見るのでは印象が変わりました。楽しかったです。もっと大きい絵にもチャレンジしてください。高寺明衣
- ◆「ともだち」という絵がすごくカラフルなのに自然なので私の中でお気に入りです。一つひとつがカラフルで、元気をもらいました！！これからもたくさん絵を描いてください。私も絵をかくことが好きなので、これからたくさん好きな絵を描いていきたいです。高寺奈絵
- ◆はじめて見に来ました。どの絵もとてもすてき。ねこの原っぱの絵は私も気に入りました。またこちらに来たとき絵を見に来ますね。油井みつき
- ◆瑞木さんも心身に天の力がこれからも豊かに宿ることをねがいつ。山本
- ◆花の絵が特に好きでした。これからもがんばってください。太田丈晴
- ◆さくらのえが一番好きでした。山下アキ
- ◆どの絵もステキです。中でも鳥たちの午後と線香花火、クリスマスを待っている、とくに好きです。ありさ
- ◆とてもステキな絵でした。全部イイ絵だったため、感動しました。菱山なつみ
- ◆みーちゃん、力強いですね。たくさんの人の愛の中で成長されましたね。浜田山キリスト教会幼児クラスの出身と伺ってほんとうにびっくり。主の祝福がさらにありますように。渡辺則子
- ◆いろいろな絵があり、とても感動しました。私も田中瑞木さんのようにがんばりたいです。須藤みのり
- ◆今日はたくさんのすてきな絵をありがとうございました！これからもご活躍お祈りしています。みんなに夢と希望を与え続けてください。応援しています。澤田亜里佐、涼太郎、珠弥
- ◆心に響きました。あったかくなります。感動をありがとうございます。8/17 優子
- ◆障がいがあるなどとはとても思えない絵に感動しました。勇気をもらえる絵です。8/17 真由美
- ◆見に来るのがとても楽しみでした。入ってみるとやっぱりすてきなものばかりでした。私も絵が好きなのでこれからもみずきさんをお手本にしようと思っています。8/18 結夢
- ◆孫の宿題で絵を見に来ましたが、私の方が感動でいっぱいになりました。いつまでも元気でがんばって良い絵を描いてください。また見たいです。早川美枝子



お客様たち



緑の展示室で

- ◆素晴らしい感性と観察力と忍耐と優しさと愛情を持っていらっしゃるんですね。感激しました。この絵を布にプリントしたり、キルトにできたら楽しいだろうと思いました。Ma-ko
- ◆おめでとうございます。心優しくしてくれる絵、家族のあたたかさ、とても感動しました。来てよかったです！これからもたくさんの人に感動を与えてください。また会えるのを楽しみにしています。8/18 原喜代子
- ◆頭にしょうがいがあってもすごくいい絵で心に残りました。8/19 根津芽依
- ◆すてきなえをありがとう。8/19 根津まい
- ◆夢のある絵をありがとう 8/19 根津千浪
- ◆おもしろい絵ばかりで、心が動きました。とっても感動しました。感動しているお母さんを見ると、私も、絵を描いて飾りたいと思いました。三枝桜子 9才
- ◆瑞木さんの絵はとても素晴らしく、かわいらしかったです。好きなことをちゃんと道をつかって、歩かせてあげられるお母さんの姿勢にも教えられることがたくさんありました。三枝映子
- ◆瑞木ちゃん、また来てしまいました！川原
- ◆瑞木さんの絵を見てもっとがんばろうと思いました。私はひまわりの絵がすごく好きでした。同じみずきでうれしいです。森瑞貴 10才
- ◆うれしかったです。絵を見てもっとがんばろうとおもいました。いろいろなえがあつてぜんぶすごかったです。森珠貴 8才
- ◆瑞木さん、すてきな絵をたくさん見せてくださってありがとう。何度も見た絵でも野辺山の風景の中で見ると、また別の感じがしました。すばらしい！！今日はどうもありがとう。8/23 佐藤誠

- ◆みずきさんの絵はいつ見ても感動します。ありがとうございました。8/23 佐藤閑子
- ◆阿部様御家族様、残暑お見舞い申しあげます。野辺山高原へ来ています。とても涼しく夏とは思えません。田中瑞木美術館展を見学して心が洗われました。ありがとうございます。これからも元気で活躍されることを期待しています。榎本信一
- ◆おともだちの八ヶ岳の別荘の帰りに寄らせてもらいました！！パワーをありがとう山田継美
- ◆色がすばらしい。それと、エネルギーがいっぱい。瑞木さんの人生を輝かせる絵の世界。個性があつてとてもステキでした。ありがとう。9/1 花森しゅんいち
- ◆ねこの原っぱの絵が気に入りました。あかおかくるみ
- ◆キリンの絵が気に入りました。みーちゃんみたいに絵がうまくなりたいです。赤岡まりも
- ◆感じたことがストレートに表現できるすばらしさ！お母様のことばに納得することが多く学ばせられました。元気をもらった展覧会でした。9/5 白鳥
- ◆0歳の娘と観させていただきました。どの絵もみていて色んなことが感じられます。お母様のコメントからも多くのことを感じ学ばせていただきました。お2人ともこれからも元気に…。展覧会を続けてください！！石原エミリ・ゆず
- ◆対象をとらえる確かな目の温かさに感動しました。やさしい気持ちになりました。ありがとう。T.T.
- ◆来て良かったです。これからはがんばってください。調布のS
- ◆田中瑞木さん、すばらしい絵をどうもありがとう。自転車にのったネコが気に入りました。



ねこたちの前の皆さん

- ◆とてもとても心をうたれました。見る事ができてほんとうに良かったです。これからも楽しみにしています。9/9
- ◆スッゲー力！スッゲー感性！パワーもらいました。
- ◆すごいね、すばらしいね。
- ◆ねこは私も大好きです。ぼくとつで、感性のすばらしさが出ています。
- ◆色つかいがとても明るくてよかったです。いっぱい描いてくださいね。しず子
- ◆すばらしいすばらしい絵にであえたことは感謝です。特に私はバラの絵が大好きです。E.
- ◆すごいうまくてよかったです。きれいでとってもすばしかったです。おやこねこ。
- ◆えがすてきだったよ。
- ◆とてもHappyな気持ちになりました。すてきな出会いでした。ありがとう！！
- ◆やっぱり猫が好き。

- ◆すごかったです。
牟田楓



絵に見入る小さな鑑賞者

- ◆ニヤッ！とてもきれいでした！
- ◆カラフルでかわいかったです！
- ◆にゃご、すごかったです。これからもがんばって。
- ◆カラフルでかわいい絵がたくさんありました。すごかったです。これからもがんばってください。応援しています。笠井愛絵里
- ◆瑞木さん、お母さん、お元気そうですね。久しぶりです。「白州いずみの家」のTです。どこかでまたお会いしたいです。それではまた。9/25
- ◆素敵な絵でした。ありがとうございます。9/25
- ◆色彩がすごくきれいだった。これからもがんばれ！！
- ◆瑞木さんのやさしい美しい画、私は忘れないよ。がんばってね。お身体大切になさって下さい。9/23 富久子
- ◆みずきさんへ。とてもすばしかったです。立体感がありました。山口寛城
- ◆しきさいかんかく、すばらしい！
- ◆タッチにエネルギーを感じました。東京の方にも是非行ってみたいと思います。ねこたち、うさぎたち、生き生きした姿に、娘たちも（3歳、5歳）大喜びで見ました。すごくうれしい時間でした。ありがとうございます。南牧村 M.T.



絵との対話

- ◆はじめまして。こんにちは。みーちゃんの絵、とてもすてきでした。大好きになりました。私と同じところがたーくさん！とってもうれしくてうれしくてうれしくて、幸せになっちゃった。私の名前もみーちゃんです。同じ字の瑞木のみーちゃん。1973年に生れたの。みんなからずっとみーちゃんと呼ばれてる。それからねこがとっても大好きです。はじめて好きになったねこはきじねこさんでした。ずっと仲良しでしだった。今も昔もこれからもずっとずっとねこは大好きです。今日はここに来てみーちゃんの絵と会えて、ほんとにほんとにうれしかったです。幸せをありがとう。ありがとう。ありがとう。瑞木（東京）
- ◆みずきさん。やっぱり感動しました！ストレートに伝わってくる感性にふるえます。そして少し私が豊かになります。池木由美子
- ◆みずきさんへ。みずきさん、わたしと同じ名前ですね。それと絵、とてもすてきでした。もう大好きになりました。最後に幸せをありがとうございます。佐久市山口瑞希



画家と未来の画家

無垢の華

緒方奎介

- ◆みずきさんへ。初めて絵を拝見しました。びっしりとキャンパスいっぱい描かれた作品の一つ一つは、油絵というよりも布…フェルトのようなやわらかな布の上に毛糸や刺しゅう糸で作られたあざやかな色彩のモチーフが縫いつけてあるようにさえ思えるほどのやわらかなあたたかな「ぬくもり」を私に与えてくれました。手で触れて、そのやわらかさを感じたいと思うような素敵作品の数々でした。いつか東京の美術館へも伺いたいと思います。どうぞこれからも素晴らしい作品を描き続けて下さい。10/5 北杜市 H. Nishi
- ◆たくさんの強い心をもらいました。ありがとう！北杜市 H. Takamizawa
- ◆とてもすごかったね。がんばって。
- ◆すごくえがうまかったです。
- ◆リアルですごかったです。私もみずきさんを見ならって絵を描きたいと思います。K. I
- ◆いつも前向きにひたすら走り続ける瑞木さんの姿には教えられることばかりの私です。永遠に美術館が開かれ、調布の宝から世界の瑞木さんへと活躍の輪が広まってゆくよう祈っています。佐藤敏弥
- ◆とても優しい絵が多く楽しめました。色づかい筆のタッチもオリジナルあふれ刺激的でした。絵を観ている他の方の顔もとてもほころんでいて、いやされました。国立市 小崎
- ◆絵を通して瑞木さんのまっすぐなまなざしを感じました。これからも素敵絵をたくさん描いていてほしいです。南牧村 今井遼太
- ◆みーちゃんはやっぱりすごかった。ありがとう 10/12 小崎
- ◆どの絵も迫力があって瑞木さんの温かさがとても伝わりました。実際にお会いすることもでき貴重なお時間をありがとうございました。またヤツレンにもおこしてください。



緒方奎介さん(右端)と画家の家族

それは天界からの賜ものであった。私も齢を重ねて人並みの審美眼が身につく選択力にも、ある自負を実感できていた頃でもあった。

南牧村の改装なった美術資料館の企画立案に携わるようになって7年、多くの企画展を実践しながらある作品の記憶が脳裏に離れずにあった。作家の代表作である「ねこの原っぱ」である。

作家の名前は田中瑞木。通称「みーちゃん」の名で呼ばれ福祉関係では名の知れた作家である。作家のことは、グラフィックの仕事を通して知っていた。しかし作家が画家を目指しているという話は知らなかった。

世の風潮の流れでグラフィック関係の仕事が激減し、いつしか私も往年の絵画制作の世界に戻りながら、幾多の作家との出会いを通じ、毎年春・夏の展覧会開催に関わってきた。あるとき、ふと絵はがきで馴染んできたみーちゃんの「ねこの原っぱ」の作品のことが思い出され、唐突に調布駅前にある田中瑞木美術館を訪ねた。

何年ぶりかの再会、学芸員の愛子さんと近況に花が咲いた。それはともかく、私は再度大きな感動を味わった。あの「ねこの原っぱ」の100号を超す大作が眼前に辺りを圧するがごとく飾ってあり、それを取り囲む他の作品の素晴らしさ!!

私の目は、それが障害者の手によるものという既存の概念を超え、瞬時にして作品たちの虜になってしまった。無心にただひたすら凄い!!凄いな!!この画面のマッチョを一体どのように例えればいいのか!!素晴らしい!!素晴らしい!!凄いな!!凄いな!!原画に手で触れるというご法度は百も承知しながらも、私の粗忽な奔放な性格により、知らぬ間に愛でるがごとく手が画面上に触れていた。「とりたちの午後」。

その時の劇的な原画との出会いを生涯忘れまい。もとより企画展の候補として「田中瑞木展」の心づもりもあったものだから、私は即座に当村での展を実現させたい願望を伝えた。学芸員であり作家の母親でもある愛子さんも快諾された。私は満たされた気持ちで美術館を辞した。

みーちゃん作品はどれもが大作である。過去に、東京草月会館等の広い空間を使った展示を経験している作家だが、今回の企画展ではどのようなことになるのか。村の美術館も遜色のない広さの5部屋を有する



八ヶ岳の展覧会を終えて

田中瑞木美術館 学芸員 阿部愛子

が、作品を能う限り飾れるかどうか、帰途の車中で危惧は募った。天井の高さについては過去にパッチワーク・キルト展で巨大な作品も展示したことがあり、不安はなかった。

会期が迫り、母親の記述による作品のエピソードや作品名のプレートにも洒落な仕上げを期する準備に多忙を極めた。

みーちゃんは近くの牛乳工場の売店でジャージー乳ソフトクリームを賞味するのが滞在中の日課になった。その微笑ましい光景は周囲を和ませた。また、みーちゃんは大の缶コーヒーのマニアでもある。缶コーヒーは何よりも自動販売機によるものというこだわりがあった。私は何故だろうかと考えてみた。もしかすると「音響」による快感がみーちゃんを刺激しているのではないかと勝手な推測をめぐらしていた。コインがチャリンと入りコーヒー缶の製品がゴトゴトと受け皿に出る実感は、確かに作家の琴線に触れる快感であろうと今でも確信している。みーちゃんどうですか？

会場に並んだ天衣無縫でダイナミックな作品たち。私は今回多くのことを学んだという感慨があった。何より作品のいずれから、作家の“無垢さ”というものが滲み出ていること。発育期の想像を絶する親子の確執などとても感じられぬようなおおらかさ。明るい色彩感覚、作家本人の一番好きな色はピンク!!なるほど、とてつもなく大きな桜の花びらがピンクの色で画面を支配する50号の大作。この大作に好感を寄せるお客様の多かったこと!!

私は会期中、自分の制作にもエネルギーをもらうべく、一人作品の前にたたずみ無言の対話をすることも多かった。あらゆる雑念を知らぬ間に排除させて、観るものを無垢な体験へと誘うものは一体何なのか？沢山の鑑賞者たちの感想文。そのどれもから観る者の率直な高揚感が実感でき胸が熱くなるのだった。

人間界で無垢なるものがとてつもない力となって人を圧倒することはよくあることだ。みーちゃん!!あなたはそれをまのあたりに実証してくれた!!2009年を終えるにあたり大きな感慨は今も実に新鮮である。

みーちゃん、あのハイタッチでありがとう!!

会場にいる間、田中瑞木は入り口奥のソファに座り、同じ姿勢で前を見ている。

雨が強く窓を吹きつけている。これでは人が来ないかもしれないという心配を彼女はしない。東京よりも濃い色のブルーに空が晴れ渡り、真っ白で形のきれいな雲が現れる。こういう日は景色の良いところへ人は誘われて出かけるのだろうと、思い煩うこともない。自動ドアが開き、お客様が来られても、席を立たない。

彼女は何を見て何を考えているのだろうか。聞いても、言葉で説明をしてくれない。しかし、表情はにこやか。いつでも気分はよい様子でいる。

彼女の絵の前に立つとき、鑑賞者はまず、驚き、興奮にとらえられている。それから、描かれている対象への目線の温かさ、色の明るさ。さらに、構図の完璧さ、筆の緻密さ、細かい作業の痕跡へと目が奪われる。多くの方は絵と対話をしている。簡単に後ろから声をかけられない雰囲気は漂っている。

はじめに多くの方々があつと驚くのは何に対してなのだろう。見方が違っていることへのギャップに驚くのか、既存の価値観が揺さぶられるのか、小さな叫びを鑑賞者は胸に抱きながら、そこに佇んでいる。佇みながら、自分の頭の中に去来するものにたじろいでいる。すぐに、思考を用いて感情の立て直しを図ろうとしているかのよう。しかし、次々に目に入る作品がそうさせない。

鑑賞者が作家の尊厳を絵の中に見出したことから、自分自身の尊厳をもそこに見つけ出しているのではないかと見えることが何度もあった。同じような回路を用いてなのだろうか、何ごとにもとらわれない自由さを見つけ出しているのではないかと思えるときもあった。



初日に駆けつけてくださった恩師の小林時平先生ご夫妻と

絵の世界に引きずり込まれ、自己への思いと不自由さを見事にあぶりだされ、それを認める潔さに、自分自身を美しく思った人が多くいたように思う。どれだけ、人は通常の生活で、固定観念や常識といわれる事柄に縛り付けられながら、生きているのだろうかと考えを廻らす。

作家が鑑賞に訪れた人に何がしかの対応をするという習慣は、彼女にはない。自分の世界で、小さな幸せのために、いまこの時を十分に生きている姿がそこにあるだけだ。描かれた絵も同様の過程を経て生まれて在る。大勢の人は作家を探す。慎ましやかに座っている女性が作家と知り、会えてうれしそうにされる。作家とさつき観た絵との整合性を探しているようにも感じる。

作家はまだ座ったままだ。言葉はいらない。言葉はこの場合、本質ではないのだから。生きて、描いて、在ることが作品の意味。だから、生きて、観て、今ここに在るということを確認めるかのように、もう一度、会場の絵の前に向かう人、作家の家族と話す人、作家の絵の本を手を取る人、作家の制作中のビデオを観る人などなど…。

「私は12時と3時に、駅前の自動販売機でコーヒー、それもブラックのコーヒーを買うの。今日は、ダイドーにしようかな、それともジョージアにしようかな。ボスもいいかな」。

12時になった。視界の端に、うれしさをこらえきれないままの笑顔で駅へと歩いている田中瑞木が見えた。

野辺山高原、八ヶ岳から気持ちのよい風が吹いてくる場所。その風とともに、絵に触れていただいた方々には、田中瑞木の世界の持つ気分のよさを感じていただけたと思う。このようなすてきなところで、全国の大勢の方々とお目にかかり、絵を通じて交流ができたことに喜びを感じている。南牧村の皆様、そして関係の皆様から心からの感謝を伝えたい。「本当にありがとうございました。」

今度は、東京調布の田中瑞木美術館へどうぞ。



グループホーム「フレンズ」の皆さんと

講演「子育ては食育から」
2010年3月7日(日)午後1:30
成徳大学教授 室田洋子先生
詳細は次号でお知らせいたします。

編集後記

夏、私たち画家の家族は八ヶ岳へ通った。お盆休みや連休など、2ヶ月半で延べ17日間になる。ポスターとチラシを携え、八ヶ岳周辺のさまざまなおじゃました。野辺山駅、清里観光案内所、小淵沢道の駅、小海町美術館、平山郁夫美術館、写真美術館、八ヶ岳ロッジ、グレースホテル、三鷹市保養所、日野市保養所、蕨市保養所、明大寮、ヤツレン、佐久総合病院小海分院、川上村役場、滝沢牧場、萌木の村、キープ牧場、きのこ園、ガソリンスタンド、パスタ屋さん、パン屋さん、蕎麦屋さん…、たくさんの人にお会いした。皆さん、猫の絵に魅せられ、原画を観たいとおっしゃられ、ポスターを貼り、チラシを置いてくださった。調布市保養所のKさんご夫妻は絵を観に来られ、宿泊の皆さんに宣伝してくださった。

美術館に訪れる多くの方々には、絵によって心が開かれ、胸のうちを語られる。心が萎えていても、絵のもつエネルギーが沁みて、力呼び起こされる。絵と、その前でお話しをされる方々の表情と、そのときのお話しの内容がセットになって、記憶は今も鮮明である。

心が動かされてこそ人は通じ合える。画家と作品は、私たちの精神を共鳴させる触媒として働き、自身は静かで堂々として揺るがない。人と共鳴し、ともにありたいと願いながらなかなか叶わぬこの社会で、このような触媒が十分働くようにすることこそ私たちの役割。その思いを新たにしたい夏であった。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ
<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp
2009年12月13日 海から海へ No.22
編集責任者 阿部公輝
〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5
マートルコート調布 407
Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878
発行所 〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
定価 200 円
無断転載禁止